

2023 年度「卒業生アンケート」の結果について

—大学・短期大学部および企業向けアンケートの結果—

2024 年 7 月

キャリアセンター 教育開発支援センター

2023 年 12 月にキャリアセンターと連携して卒業生および企業に対するアンケート調査を実施した。卒業後 3 年を経過した学生を対象として、就業状況を含めた動向を調査している。今回は、2021 年 3 月に卒業した 17 年度生および短期大学部の 19 年度生を対象にアンケートを依頼した。質問項目は大学生生活の充実度を問う質問をはじめ、社会に出て感じて抱く、大学在学中にもっと身につければ良かった能力・資質に関するものを中心に本学における教育の質向上に資する設問とした。企業向けアンケートにおいては、教育開発支援センターが実施する成長実感調査で使用する汎用的能力 12 項目を用いた。これは、在学生の学修成果の可視化に加え、本学の卒業生が社会や時代の中で求められている能力や資質を明らかにして教育現場にフィードバックすることで、教育の適切性を在学時と卒業後にダブルチェックして、教育の質向上に役立てる「実学教育型の内部質保証」を目的としている。

1. 調査の概要

- (1) 実施時期：2023 年 12 月 27 日～2024 年 2 月 29 日
- (2) 調査方法：Google フォームを使用して作成したアンケート
- (3) アンケート回答数および回答率

表 1. アンケート回答数および回答率

	対象	依頼数	不達数	回答数	回答率
大 学	17 年度生	1,132 名	116 名	95 名	9%
短 期 大 学 部	19 年度生	58 名	6 名	6 名	12%
企 業	大学 17 年度生が就職した企業	308 社	9 社	92 社	31%
	短大 19 年度生が就職した企業	19 社	0 社	4 社	21%

2. 卒業生アンケート（大学）

(1) アンケート回答者の属性

95 名の回答者の男女比は 7 : 3 で、入学時の割合（8 : 2）に比し女性の比率がやや高かった。業種については、サービス業、製造業、小売業をはじめ、多岐に及んでいる。また、職種は営業・販売職が回答者全体の約 3 割を占めている。就業者のうち、正社員と公務員が合わせて 72 名（76%）を占める一方で、非正規雇用で働いている卒業生も 13 名（14%）いる。また、在学中の課外活動の有無については、「活動していた」が 42 名（44%）であった。さらに、離職・転職について、卒業した際に就職した 82 名のうち、1 年以内 12 名（15%）、2 年以内 11 名（13%）、3 年以内 7 名（9%）の合計 30 名（37%）が「離職・転職した」と回答した。離職の理由は、「キャリアアップのため」、「労働時間などの労働条件に不満」が多かった。企業研究を十分に行えば離職を回避できていたと思われるケースがあり、学生の企業研究のあり方に留意した指導や支援内容の強化が必要であろう。

(2) 調査結果の要約

① 大学生生活の充実度

4 点尺度による測定の結果、「非常に充実していた」の割合は 30.5%であり、2022 年度の 42.9%から約 10%減少した。また、「ある程度充実していた」の割合は 62.1%で、合わせて 92.6%が肯定的な回答を寄せた（図 1、表 2）。

表 2. 大学生生活の充実度について（学部・学科別）（人）

学部・学科	1	2	3	4	合計
商 学 部	0	9	0	0	9
経 営 学 部 経 営 学 科	5	5	1	1	12
経営学部ホスピタリティ経営学科	3	6	0	0	9
経 済 学 部	8	26	3	1	38
法 学 部	5	3	0	1	9
外 国 語 学 部	4	4	0	0	8
国 際 学 部	1	3	0	0	4
情 報 学 部	3	3	0	0	6
合 計	29	59	4	3	95

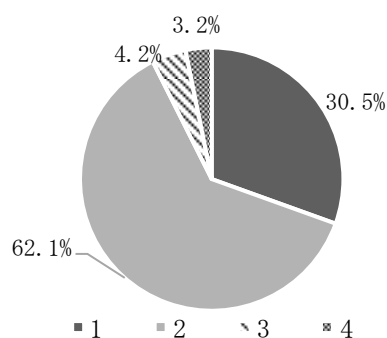


図 1. 大学生生活の充実度について

註) 1. 非常に充実していた、2. ある程度充実していた、3. あまり充実していなかった、4. 充実していなかった

② 大学時代の学修が全体として現在役立っているか
「非常に役立っている」と回答した卒業生は20.0%で、2022年度の15.4%から約5%増えた。また、「ある程度役立っている」の回答は44.2%で、合わせて64%が肯定的な回答を寄せた（図2）。

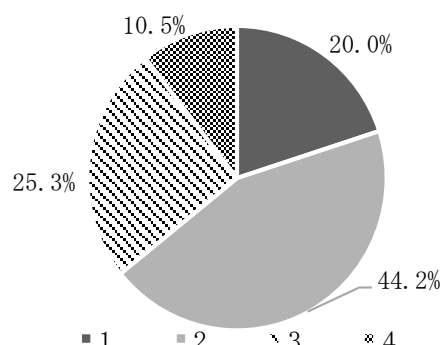


図2. 大学時代の専攻科目、語学、共通科目（一般教養）、ゼミナールなどで学んだことや経験は、総合的に、どの程度役立っていると思いますか。
註) 1. 非常に役立っている、2. ある程度役立っている、3. あまり役立っていない、4. 役立っていない

③ 大学で良かったもの、悪かったものを選択する設問
大学で良かったと思うこと、悪かったと思うことを3つ選択する設問に対する結果を表3に示した。また、図3は大学で良かったと回答する卒業生の多い順に並べ替えたもので、その項目を悪かったと答えた件数もあわせて示した。⑨キャリアサポート、①教員のサポート、③教育施設・設備を「良かった点」として挙げる卒業生が多い。また、施設面では、④キャンパスの雰囲気、⑥図書館を選択する卒業生が多かった。一方、⑩事務サービスに対する肯定的な意見は少なかった。⑦食堂、②教育内容は、「良くなかった点」に挙げる卒業生が多い。このことは、コロナ禍による授業実施方法の変更が影響しているのかもしれない。

表3. 大学で良かったもの、良くなかったものを次の項目から3つ選択した結果

項目	良かった点	良くなかった点
①教員のサポート	26	14
②教育内容	17	18
③教育施設	26	10
④キャンパスの雰囲気	24	17
⑤キャンパス周辺の環境	12	17
⑥図書館	18	5
⑦食堂	17	29
⑧ラウンジ等	2	10
⑨キャリアサポート	35	8
⑩事務サービス	6	12
⑪課外活動	24	9

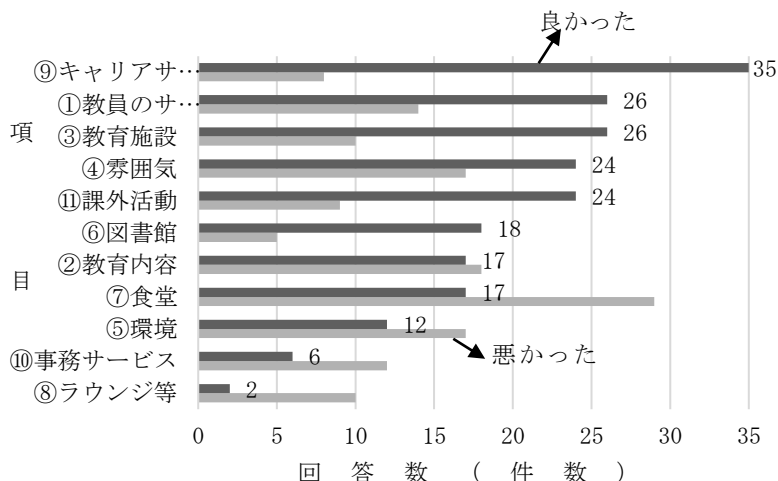


図3. 大学で良かったと思ったこと、良くなかったと思ったこと（良かった点の多かった順）

④ 課外活動の有無と大学生生活の充実度との関係について

課外活動の有無と大学生生活の充実度との関わりを調べるため、課外活動の有無によって、卒業生を2つのグループに分けた。これまでの卒業生アンケートでは、課外活動（クラブ・サークル活動）をしていた学生の方が明らかに大学生生活の充実度が高いという結果が見られたのに対し、2023年度は課外活動「なし」の学生との差があまり見られなかった。コロナ禍で十分なクラブ活動ができなかったことが影響していると思われる（表4）。

表4. 課外活動の有無と大学生生活の充実度とのクロス集計

大学生生活の充実度	課外活動の有無		計
	あり	なし	
1. 非常に充実していた	17	12	29
2. どちらといえば充実していた	21	38	59
3. あまり充実していなかった	2	2	4
4. 充実していなかった	2	1	3
計	42	53	95

3. 卒業生アンケート（短期大学部）

(1) アンケート回答者の属性

8名の回答者において、23歳が8割を占めた。業種は、卸売業、サービス業、金融・保険業であった。職種は一般職（事務）、総合職（営業・事務）であり、在職中の6名全員が正社員である。また、在学中の課外活動の有無については、「活動していた」が1名であった。卒業時に就職した5名のうち、1名が2年以内に離職・転職したと回答した。

(2) 調査結果の要約

① 大学生生活の充実度

「非常に充実していた」の割合は12.5%、「どちらかと言えば充実していた」の割合は75.0%であった。（図4）。

② 大学時代の学習が全体として現在役立っているか

「学習が非常に役立っている」と1名（12.5%）が、「ある程度役立っている」と6名（75.0%）が回答した（図5）。

③ 大学で良かったもの、悪かったものを選択する設問

大学で良かったと思うこと、悪かったと思うことを3つ選択する設問に対する結果を表5に示した。また、図6は大学で良かったと回答する卒業生の多い順に並べ替えたもので、その項目を悪かったと答えた件数もあわせて示した。①教員のサポート、③教育施設・設備、④キャンパスの雰囲気を「良かった点」として挙げる卒業生が多い。また、施設面では、3名が⑥図書館を挙げた。また、「良くなかった点」として、⑦食堂、③教育施設・設備や⑪課外活動が挙げた。

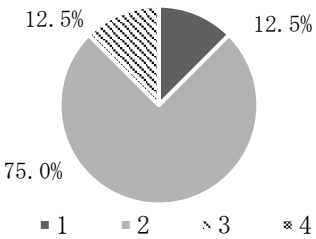


図4. 大学生生活の充実度について
 註) 1. 非常に充実していた、2. ある程度充実していた、3. あまり充実していなかった、4. 充実していなかった

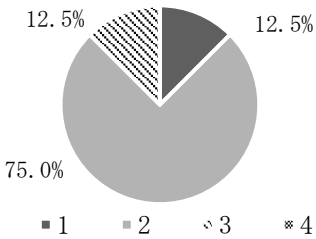


図5. 大学時代の専攻科目、語学、共通科目（一般教養）、ゼミナールなどで学んだことや経験は、総合的に、どの程度役立っていると思いますか。

註) 1. 非常に役立っている、2. ある程度役立っている、3. あまり役立っていない、4. 役立っていない

表5. 大学で良かったもの、良くなかったものを次の項目から3つ選択した結果

項目	良かった点	良くなかった点
①教員のサポート	4	1
②教育内容	3	1
③教育施設	4	2
④キャンパスの雰囲気	4	1
⑤キャンパス周辺的环境	0	0
⑥図書館	3	0
⑦食堂	2	3
⑧ラウンジ等	1	1
⑨キャリアサポート	1	0
⑩事務サービス	1	1
⑪課外活動	1	2

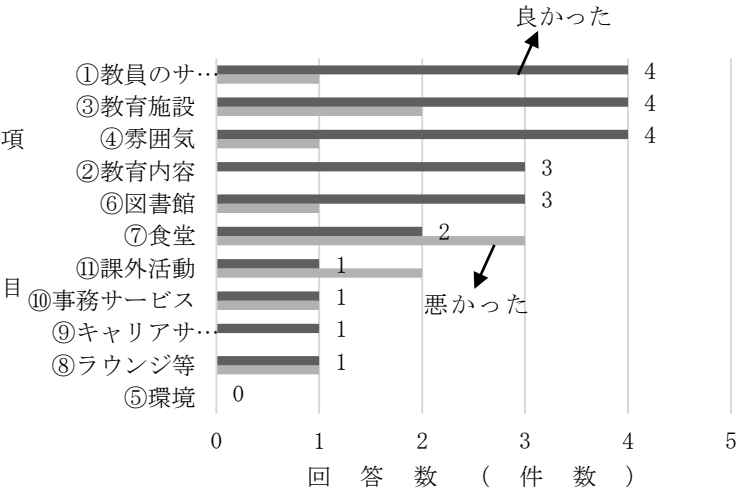


図6. 大学で良かったと思ったこと、良くなかったと思ったこと（良かった点の多かった順）

4. 企業向けアンケート

(1) アンケート回答企業の属性

回答した 96 の企業において、本社所在地は大阪府が全体の 44%を占めた。また、アンケートに回答した事業所等の所在地も大阪府が全体の半数を占めた。総従業員規模で見ると、1,000 人以上が 40 社で全体の 42%であった。また、業種は小売業、サービス業、卸売業の順に様々な業種の企業からの回答があった(図 7)。回答企業において本学卒業生は現在も継続して勤務しているか聞いたところ、89 社(93%)が「はい」と回答した。この他に、19 項目について採用における重要度を聞く設問と、6 項目のルール・マナーについて本学卒業生がどの程度身に付けられているかを問う設問を設けた。

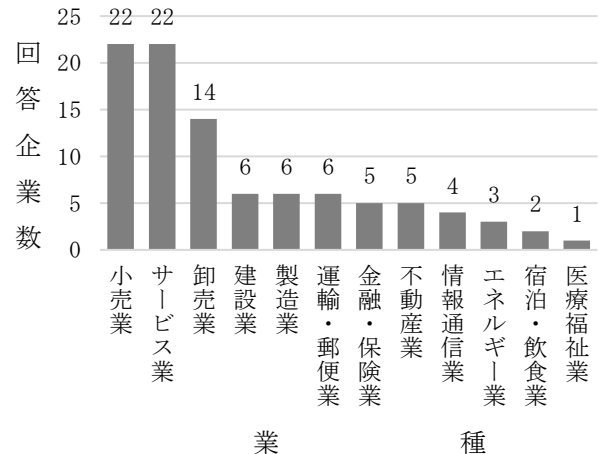


図 7. 2023 年度企業向けアンケートに回答した企業の業種

(2) 12 の汎用的能力に関するアンケート

教育開発支援センターが実施する成長実感調査で使用する汎用的能力 12 項目を用い、「企業が採用の際に重視する汎用的能力」および「本学卒業生が身に付けている汎用的能力」を聞くこととした。

5. 12 の汎用的能力を使った実学 PDCA について

先の 4. (2) で述べたように、これにより、卒業生および企業から本学の教育に対するフィードバックを得ることができるようになった。これは、教育開発支援センターが考える社会や時代からのフィードバックを本学の教育に還元し、本学の教育システムをチェックするという点検・評価、「実学教育型の内部質保証」の取り組みである。

汎用的能力に関する 12 項目は次のとおりである (①所属する学部に関する専門分野の知識、②情報分析力や問題解決能力、③リーダーシップの能力(統率力)、④人間関係を構築する能力、⑤他の人と協力して物事を遂行する能力、⑥日本社会や世界が直面する問題の理解力、⑦文章表現能力、⑧プレゼンテーションの能力、⑨コンピューターの操作能力、⑩時間を有効に活用する能力、⑪視野の広い見方をする能力、⑫自らを律する能力(自己管理力))。

(1) 身に付いたと思う汎用的能力(大学・短期大学部)

「身に付いたと思う汎用的能力」について、かなり身に付いた: 5 点、やや身に付いた: 4 点、どちらともいえない: 3 点、あまり身に付かなかった: 2 点、全く身に付かなかった: 1 点として、平均値を算出した。

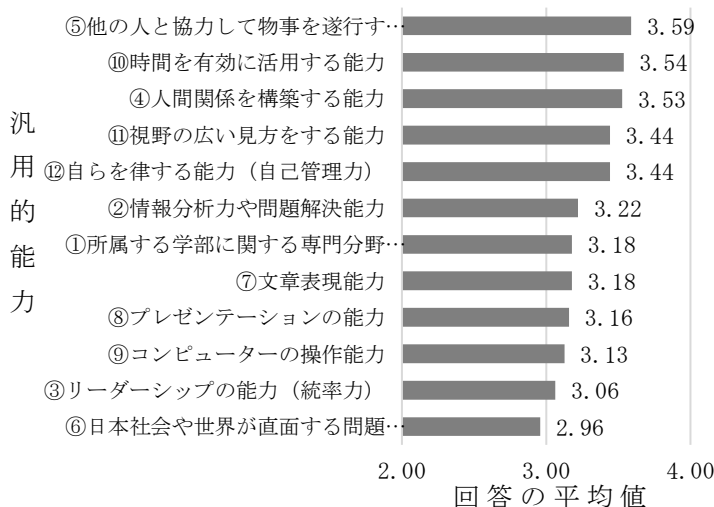


図 8. 在学中に身に付けたと思う能力(大学)

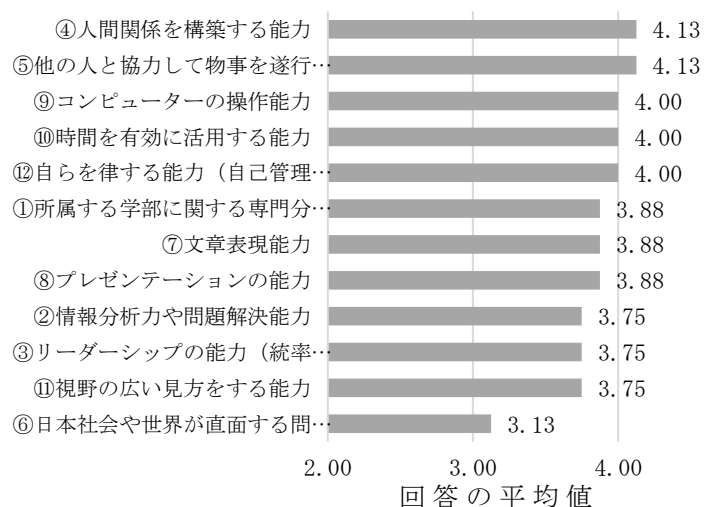


図 9. 在学中に身に付けたと思う能力(短期大学部)

その結果、図 8 から分かるように、大学の卒業生は、「他の人と協力して物事を遂行する能力」、「時間を有効に活用する能力」、「人間関係を構築する能力」などを大学で身につけられたと評価しており、大学での勉学により時間管理能力を身に付け、他人とうまくつながることができていることが伺える。一方で「日本社会や世界が直面する問題の理解力」、「リーダーシップの能力」、「コンピューターの操作能力」はあまりに身に付かなかったと感じているようである。

一方、短期大学部の卒業生は、図 9 のとおり、「人間関係を構築する能力」、「他の人と協力して物事を遂行する能力」、「コンピューターの操作能力」、「時間を有効に活用する能力」などを大学で身につけられたと自己評価している。「日本社会や世界が直面する問題の理解力」、「視野の広い見方をする能力」、「リーダーシップの能力」はあまり身に付かなかったと感じているようである。

(2) 身に付ければよかったと思う汎用的能力（大学・短期大学部）

「身に付ければよかったと思う汎用的能力」について、非常にそう思う：5 点、ややそう思う：4 点、どちらでもない：3 点、あまりそう思わない：2 点、全くそう思わない：1 点として、平均値を算出した。

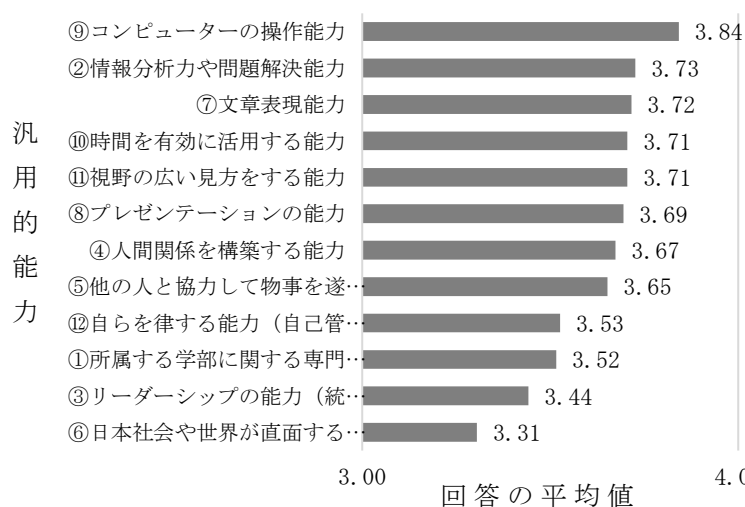


図 10. 在学中に身に付ければよかったと思う能力（大学）

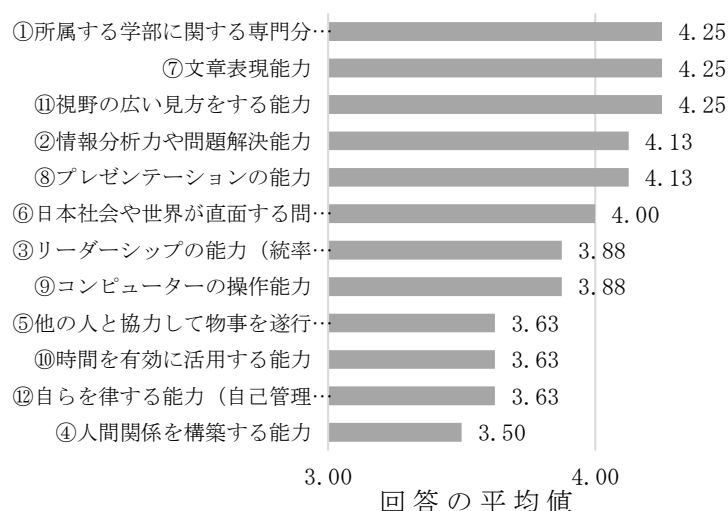


図 11. 在学中に身に付ければよかったと思う能力（短期大学部）

大学の卒業生は、図 10 のとおり、「コンピューターの操作能力」および「情報分析力」、「文章表現能力」をもっと身につけておくべきだったと感じているようである。文章を書く課題やパソコンソフトを使用する課題を積極的に課し、スキルアップのために学生がフィードバックを得る機会を増やすことが有効であろう。また、短期大学部の卒業生は、図 11 より、「所属する学部に関する専門分野の知識」、「文章表現能力」、「視野の広い見方をする能力」において、社会に出て必要性を強く実感していると思われる。これらの能力をより伸ばすようなカリキュラム開発が求められていると言える。

(3) 本学卒業生が身に付けている汎用的能力（企業）

企業に対し、5 点尺度で聞いた。優れている：5 点、やや優れている：4 点、普通：3 点、やや劣る：2 点、劣る：1 点として、平均値を算出したところ、図 12 のとおり、「人間関係を構築する能力」、「他の人と協力して物事を遂行する能力」、「自らを律する能力（自己管理力）」において良く身に付いていると回答された。一方、「日本社会や世界が直面する問題の理解力」、「所属する学部に関する専門分野の知識」、「文章表現能力」、「コンピューターの操作能力」への回答の平均値は低い結果であった。

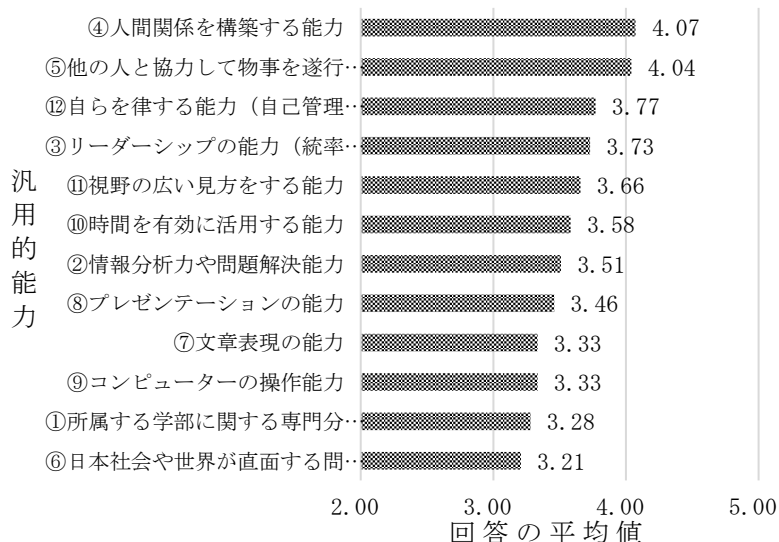


図 12. 本学卒業生が身に付けている汎用的能力（企業）

(4) 企業が求める汎用的能力

企業に対し、5 点尺度で聞いた。重視する：5 点、どちらかと言えば重視する：4 点、どちらとも言えない：3 点、どちらかと言えば重視しない：2 点、重視しない：1 点として、平均値を算出した。図 13 から分かるように、「人間関係を構築する能力」、「他の人と協力して物事を遂行する能力」、「自らを律する能力（自己管理能力）」、「視野の広い見方をする能力」が上位に挙げられた。また、「所属する学部に関する専門分野の知識」、「コンピューターの操作能力」、「日本社会や世界が直面する問題の理解力」における重視の度合いは低い結果であった。

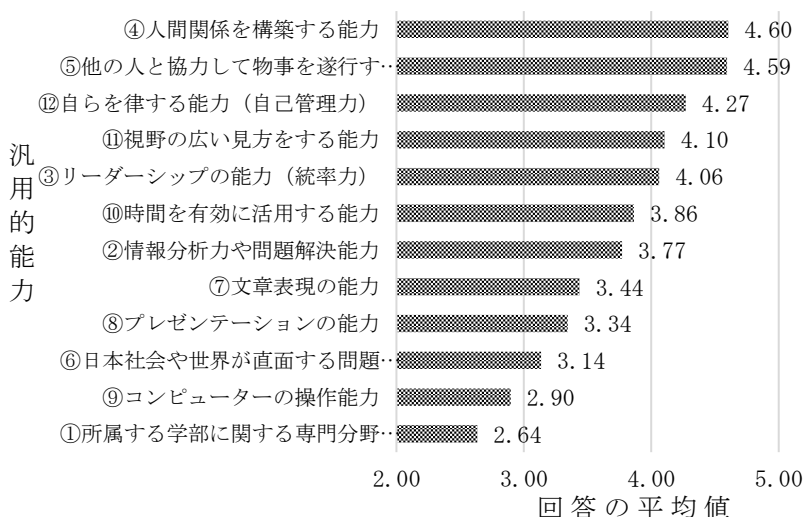


図 13. 企業が求める汎用的能力

6. まとめ

卒業生アンケートで本学の教育で身についたこと、大学で身につけておくべきだったことを問うことにより、卒業生が社会人として必要性を感じる「社会や時代の中で求められる能力・資質」が明らかになる。卒業生が就職した企業に対しても「12の汎用的能力」を基にしたアンケートを実施し、実業界から本学に求められるニーズの測定を行い、在学生、卒業生、企業に対するアンケートに同一基準を用いることにより、改善点のさらなる明確化が可能になった（図14）。

2023年度の結果を見ると、大学では、「⑤他の人と協力して物事を遂行する能力」と、「⑩時間を有効に活用する能力」、「④人間関係を構築する能力」が身に付いたという卒業生の実感は、企業側も「よく身に付いている」と評価している。また、卒業生が「身に付ければよかった」と振り返る「⑨コンピュータの操作能力」は、企業の本学の卒業生における評価において下位であった。次に、短期大学の卒業生は、「④人間関係を構築する能力」、「⑤他の人と協力して物事を遂行する能力」が「身に付いた」と実感している一方、「①所属する学部に関する専門分野の知識」、「⑦文章表現能力」、「⑪視野の広い見方をする能力」については「身に付ければ良かった」と感じていることがわかった。

なお、本学卒業生の就職先企業が人材採用において重視する事項は「④人間関係を構築する能力」、「⑤他の人と協力して物事を遂行する能力」であった。本学のゼミナール教育は、人間関係構築力を養う機会となっており、教員のサポートを「良かったこと」に挙げる卒業生は多い。引き続き、ゼミナールでの丁寧な個別指導や将来に向けた進路相談に力を入れることは、重要であると言える。一方、「①学部の専門知識」は、低い結果であった。学生が本学で身に付けた専門知識が、就職先企業によって高く評価されることは、本学が実践する実学教育の質保証の観点からも望ましいといえよう。

また、アンケートの精度をより高めるため、引き続き、アンケートの回答率を上げる工夫が必要と言える。

調査へ協力いただいた卒業生、企業に感謝と御礼を申し上げるとともに、この結果をもって、学位授与方針やカリキュラムの見直し、就職進路支援に役立てることで、「実学教育型の内部質保証」として広い視野からの教育改善に取り組んでいきたい。

以上

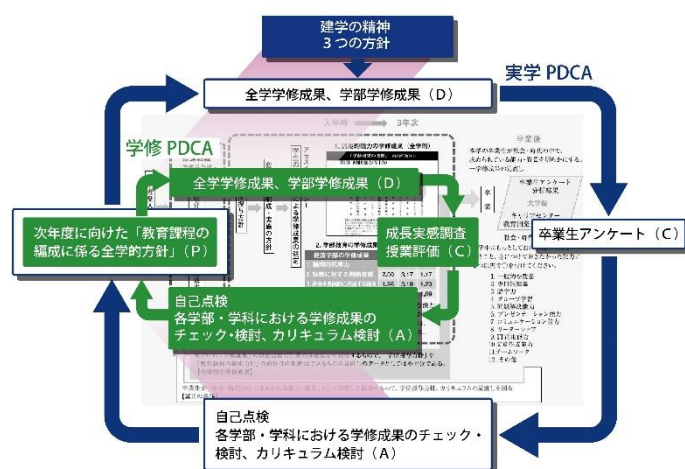


図 14. 学修 PDCA と実学 PDCA の模式図